

平成 29 年 7 月定例教育委員会会議録

1. 日 時 平成 29 年 7 月 27 日 (木) 午後 2 時～午後 4 時 15 分

2. 場 所 市役所新館 4 階 第 1 委員会室

3. 出席者

教育長 樋口 利彦 教育長職務代理者 野口 和江 委 員 中野 俊勝
委 員 谷口 馨 委 員 河野 さおり

4. 事務局出席者

教育総務部長 小山 藤夫／学校教育部長 谷 桂輔／生涯学習部長 濱上 剛志
学校給食課長 山本 隆彦／学校管理課長 山本 千尋／産業高校学務課長 小林 大樹
学校教育課長 松村 慎治／人権教育課長 長岡 英晃／生涯学習課長 西尾 征樹
スポーツ振興課長 津田 伸一／郷土文化室長 西川 正宏／図書館長 玉井 良治
総務課参事 倉垣 裕行／総務課参事 高井 哲也

開会 午後 2 時

前回会議録について承認された。本会議録署名者に谷口委員を指名した。
傍聴人 10 名。

○樋口教育長

ただいまから、平成 29 年度 7 月の定例教育委員会会議を開催します。

報告第 47 号 産業高校市民公開講座「簿記講座 3 級」の実施について

○樋口教育長

報告第 47 号について、説明をお願いします。

○小林産業高校学務課長

報告第 47 号につきましては、産業高校市民公開講座「簿記講座 3 級」の実施についてです。
毎年開催しております、11 月実施の日商簿記検定 3 級の合格を目指した講座です。対象者は、
学生を除く市内在住・在勤者です。8 月 25 日から 11 月 17 日までの火曜日、金曜日の午後 6 時から
7 時 30 分まで、産業高校の教室で行います。定員を 15 名で募集し、7 月 21 日の応募締切日で 17 名
の応募がありましたので、抽選により 15 名の方に受講していただきます。実習費はテキスト代等
で 2,000 円、講師は産業高校の教諭です。広報きしわだ 7 月号に掲載して周知を行いました。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○中野委員

産業高校の商業科では、全商簿記1級合格を目指しているとあります。今回の講座は社会人向けなので、日商簿記3級合格を目指しています。全商簿記は高校生向け、日商簿記は社会人向けで、日商簿記の方がやや難しいのかと思います。比較は簡単にできないと思いますが、例えば、日商簿記3級というのは全商簿記の2級くらいと考えて良いのかどうか、いかがでしょうか。

○小林産業高校学務課長

全商簿記は高校生向けと聞いていますので、同じ級であっても全商の方と差があると思いますが、日商簿記3級が全商簿記2級なのかわかりませんので、級の比較については確認します。

○中野委員

比較は難しいと思います。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第48号 平成29年度 岸和田市教育フォーラムについて

○樋口教育長

報告第48号について、説明をお願いします。

○松村学校教育課長

報告第48号につきましては、平成29年度 岸和田市教育フォーラムについてです。

今年度のテーマは、「子どもの道徳性を養う」ということで行います。目的は、講演・実践発表等を通して、今求められている教育について各学校・各教員が理解を深め、今後の指導に生かします。また、市民・保護者が、今求められている教育について知る機会にすることです。8月9日（水）午後1時30分から4時45分まで、マドカホールで行います。

当日の日程は、午後1時30分から教育長に開会の挨拶をお願いしまして、同35分から開会セレモニーということで大宮幼稚園児による歌を行います。その後、同45分から中学校の生徒会サミットから取組みの報告を行います。北中学校と桜台中学校の生徒たちによる発表・報告で、取組みは全校で取組んでいる内容になります。午後2時からのシンポジウムでは、「子どもの道徳性を養う」ということで公開討論を行って参ります。シンポジストとしまして、河野学校教育課指導主事、城東小学校の教員、保護者代表の方は以前市PTAの代表をさせていただいていた方をお願いをしております。生徒代表ということで産業高校からも、昨年後期の生徒会会長、今は相談役をしている生徒に出てもらおうと思っています。また、大阪教育大学の金光教授にもお願いをしております。以上の5名によりまして、シンポジウムを行って参ります。その後、午後3時から金光大阪教育大学教授に「みんなで育もう 子どもたちの道徳性」という基調講演をしていただき、質疑応答を行い午後4時45分に閉会となります。

幼稚園から高校までの全ての校種の関係する方々に出ていただき、普段からの取組みもこの場を借りて発信して参ります。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○谷口委員

本市の教育フォーラムも定着して、毎回素晴らしい内容、素晴らしい講師をお招きして、素晴らしい状態が続いていると思います。特に今年は、道徳の教科書採択の関係もありまして、このテーマはタイムリーだと思います。道徳に関しまして、保護者や市民の方の協力が非常に重要な位置を占めていますので、あまり日にちはありませんが、もっと市民の方にアピールする周知をしてもらいたいと思います。

○中野委員

昨年度、「ユニバーサルデザインを意識した教育を考える」という内容で実施されて、市外からの参加者もあったと聞いています。この教育活動がどんどん広がっていくということは、大変心強く感じています。今回のテーマが「子どもの道徳性を養う」ということで、道徳教育というのは家庭や地域にも開かれたものであるもので、市民や保護者に広く知ってもらいたい良い機会だと思います。周知方法ですが、どのようにされているのか教えてください。

○松村学校教育課長

学校関係につきましては、各学校へ発信させていただいています。市民の方々につきましては、WEB上に公開をして周知を行いました。さらに近隣の市町村等につきましても、大阪府の連絡網を通じて案内を渡しています。出来るだけたくさんの方に来ていただけるようにしています。

○樋口教育長

学校教員がどれだけ集まるか分かりますか。

○松村学校教育課長

概ね定員の半分から3分の2の数くらいだと思いますが、もう少し申込期間がありますので、まだ増えると思います。

○野口教育長職務代理者

幼稚園児、中学校の生徒、産業高校の生徒が参加されて、岸和田市の教育界をみんなで作り上げていくのだと感じますので、とても楽しみにしています。

○樋口教育長

ほかにかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告は以上ですが、他にありませんか。

○小林産業高校学務課長

6月の定例教育委員会会議で「議案第30号 平成30年度 岸和田市立産業高等学校入学者選抜における学力検査問題の選択、配点比率及びアドミッションポリシーについて」説明させていただきましたが、資料の一部について訂正をさせていただきたいものです。6月に配布いたしました「別紙2」で中野委員よりご指摘いただきました箇所の訂正になります。特別入学者選抜の表中、「総合点」という表記に誤りがあるというご指摘をいただきましたので、その訂正をさせて

いただきたいと思います。特別入学者選抜の“総合点”というのは、学力検査の成績と調査書の評定に実技検査の成績を加えたものとなっています。訂正前では、学力検査の成績と調査書の評定の合計が“総合点”となっていますので間違いがあります。そこで、訂正後の特別入学者選抜の“総合点”は、学力検査と調査書の合計に実技検査の成績を足したものとしており、正しい表記になっています。大阪府から4月24日に提供された資料を使用させていただきましたが、前回の会議終了後に大阪府の担当者に問い合わせさせていただいたところ、「来年度に向けて訂正を検討する」と回答をいただいておりますので、来年度その辺りを留意して間違いがないように提示できればと思います。万一、訂正がなされていない場合には、当課の方で資料をきちんと作成した上でご提示させていただきたいと思いますので、ご了承いただきたいと思います。

○樋口教育長

前日のご指摘のあった部分の訂正の報告をしていただきました。なにかお尋ね等ございませんでしょうか。

○中野委員

感想を申し上げますが、早く気が付いて、速やかに訂正していただいて良かったと思っています。この4月に提供された資料は中学校には出回っていないということですね。訂正後の資料が中学校へ出たということで、その点の心配はしなくて良いですね。

○小林産業高校学務課長

最初の資料は、内部にしか出回っていませんので大丈夫です。

○樋口教育長

ほかにかがででしょうか。ないようですので、報告として承りました。

ほかには報告はないでしょうか。ないようですので、議案の審議に移ります。

議案第31号 平成30年度市立幼稚園児の募集について

○樋口教育長

議案第31号について、説明をお願いします。

○高井総務課参事

議案第31号につきましては、平成30年度市立幼稚園児の募集についてです。

今年度、岸和田市子ども・子育て支援事業計画の計画期間中間年にあたり、当初計画の教育・保育の量の見込みの検証を行い、量の見込みの見直しによりまして平成30年度での新たな実施を見送り、平成29年度と同様に市立幼稚園9園で3歳児の募集を行いたいと思っています。そこで、市立幼稚園児募集要項に基づきまして、3歳から5歳児の園児を募集します。

3歳児の願書の配布は、9月19日(火)、20日(水)全幼稚園で配布します。受付については、9月27日(水)、28日(木)の2日間、3歳児募集幼稚園で受付させていただきます。また、申込みが25名の定員を超えた場合、10月6日(金)午後2時から定員を超える幼稚園で公開抽選を行います。25名の定員に満たない場合、二次募集をさせていただき、申込みが募集数を超える場合には、二次募集の公開抽選を行います。周知は、広報さしわだ8月号、市のホームページ、

各3歳児募集幼稚園での立て看板設置、ポスターの掲示で行います。

5歳児・4歳児については、3歳児の定員を除いた定員で募集をかけます。まずは、5歳児の願書配布を行い、その後4歳児の願書配布を行います。受付は、5歳児が10月19日（水）、20日（木）の2日間、4歳児が10月26日（水）、27日（木）の2日間です。周知は、広報きしわだ9月号、市のホームページ、各幼稚園での立て看板設置、ポスターの掲示で行います。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○谷口委員

3歳児の実施を9園に留めたことで、来年度は入れたいと思っていた保護者からの問い合わせ等は無かったでしょうか。

○高井総務課参事

現状聞いていません。8月1日に広報きしわだが出ますので、その日以降にどのような声がかかるかということになります。

○中野委員

3歳児募集の計画変更ということですが、当初の推計児童数は把握しやすい数字ですが、量の見込みの算出をするニーズ調査が難しかったのでしょうか。それが、乖離を生む元だったのかと思います。先日の子ども・子育て会議で、保護者の方も来られていたと思うので、このことへの反応や出された意見を簡単で良いので教えてください。

○高井総務課参事

乖離したのは何故か、と質問が出ました。乖離しているので、量の見込みを見直したところですが、やはり、ニーズ調査の結果に上乘せしたことによる大きな要因だと説明をさせていただきました。計画自体は、待機児童解消が根本にあります。量の見込みを減らして確保の計画を見直すことについて、教育と保育とは違うという意見もいただきました。子どもを預けないと働きにいけないというニーズに対する保育所と教育を受けさせたいという幼稚園とでは、違いがあるかと思います。平成30年度は計画を見直して9園で実施としていますが、30年度の募集した応募結果を見た上で、31年度の実施については検討したいと考えています。

○野口教育長職務代理者

3歳児から学校教育の対象になっていることを考えると、考えていけないといけない課題だと思います。市の状況もあって30年度は見送りにりましたが、3歳児募集の広報で立て看板が3歳児の実施園だけになっていますが、3歳児保育をしていますよ、ということをどの幼稚園でも広報した方が良いでしょう。せめてポスターだけでも全ての幼稚園に掲示して、3歳児保育を実施している幼稚園がわかるようにしていただきたいと思います。

○高井総務課参事

立て看板については、実施していない幼稚園で設置すると実施しているような勘違いが起きるかもしれません。ポスターについて、全園で3歳児実施園がわかるような広報を来年度考えていけたらと思います。

○樋口教育長

岸和田市の特色ある取組みのひとつです。

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、原案のとおり承認することとします。

議案第 32 号 岸和田市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

○樋口教育長

議案第 32 号について、説明をお願いします。

○津田スポーツ振興課長

議案第 32 号につきましては、岸和田市スポーツ推進審議会委員の委嘱についてです。

岸和田市附属機関条例及び岸和田市スポーツ推進審議会規則に基づき、当該審議会の委員を委嘱するものです。定員は条例により 15 名以内となっており、14 名の方を委嘱する予定です。構成は規則にのっとり、スポーツに関して学識経験を有する者、公募市民、関係行政機関の職員、その他教育委員会が認めた者となっております。

市民公募につきましては広報きしわだ 6 月号で募集を行い、2 名枠のところ 3 名の募集がありましたので、選考要領による審査のうえ選定しております。

8 月 4 日の第 1 回審議会において、委嘱状を交付させていただき予定となっております。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○中野委員

東京オリンピック、パラリンピックが、ちょうど 3 年後になりました。この関係もあって、最近、10 代の若い選手が色々な種目で大活躍しています。この流れを本市においても大切にしながら、市民の健康保持・増進に向けて、審議会委員の方々のご活躍を期待したいと思います。

○谷口委員

委員になられている方々は、スポーツ団体に所属している方が多いと思いますので、この方々のご協力を得て、中学校の先生方の部活動の指導に対する働き方の問題というのも大きく取り上げられていますので、委員の方々あるいはその団体に協力を求めているかがでしょうか。検討していただければと思います。

○津田スポーツ振興課長

学校教育課ともその辺は調整をさせていただきながら、団体に協力依頼をさせていただくつもりでいます。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、原案のとおり承認することとします。

○樋口教育長

次の議案は教科用図書採択ですので、採択の関係者以外は退席願います。また、審議に入る前に準備等があるようですので、少しお待ちください。

議案第 33 号 岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における平成 30 年度使用教科用図書の採択について

○樋口教育長

議案第 33 号について、説明をお願いします。

○松村学校教育課長

議案第 33 号につきましては、岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における平成 30 年度使用教科用図書の採択についてです。

本件は、岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）で平成 30 年度に使用する教科用図書について、教育委員会で採択するため、産業高等学校における教科用図書選定委員会の答申を上程するものでございます。採択のご審議をいただくにあたりまして、産業高等学校の方から選定委員会の報告を説明させていただきます。

○樋口教育長

全日制課程における選定理由の説明をお願いします。

《全日制》

○大西産業高校全日制教務部長

まず、国語で現代文Bの教科書ですが、前回の教科書と今回新たに代えた教科書を比較したところ、評論と随想の部分が多くなっており、進学者も増えてきていますので、その辺りの入試対策にも内容的に合っているということで、新しい教科書を選定しております。現在使用している教科書は5年ほど前に採択していただいたもので、その当時も今回新たに選定した教科書はあったのですが、当時は本校の生徒に内容的、時代的にも使っていた教科書が合っていたということでした。今回、5年ほど経っていることもありますし、内容的に時代背景等も新しく変わってきているこちらの数研出版の教科書を選定しております。

続きまして、外国語のコミュニケーションⅡの教科書です。内容的に題材が、本校の生徒あるいは現代の子供たちに興味を魅かれるような内容になっていることと、若干、内容的にやさしくなっている教科書を選定しておりますが、読みやすい内容になっているということで採択していただきたく選定しております。

3つ目、芸術の美術Ⅱになるのですが、本校はシステムデザイン科がございます。その生徒が使う教科書ですが、前回の教科書は目次がなかったり、テーマを与えられたときにどのページを見れば良いのか分かりにくかったりしたということでした。今回この教科書は初めて出版されたということですが、目次もありますし、内容的に専門性の高い内容になっていることと、それぞれの作品に対して詳細な説明書きもあるということで、こちらの教科書を選ばせていただいたということです。

○樋口教育長

いただいています資料に調査の観点を明示していただいて、今、理由は言っていたのですが、選定委員会は、特に今回この3教科の教科書を選ぶにあたって、どのような点を留意しながら選定をされたのでしょうか。

○大西産業高校全日制教務部長

年々、入学してくる生徒の多様化と言いますか、広がってきていますので、本校の生徒に合った内容であるかどうか、というところを重視して選定しています。

○中野委員

教育長が質問した内容というのは、産業高校では就職、進学両方の希望者がいて、最近進学者が増えてきていますので、そういう状況の中で、教科書採択は非常に難しい点があると思います。各教科をバラバラで採択されると困りますので、学校として各教科間の共通理解を持って教科書採択をしなければ学校としての体制が整わないと思います。その辺を教育長も苦しめていると思うのですが、選定経過の中で教科間の共通理解というのは、どのようなまとめり方をしたのか教えていただければと思います。

○大西産業高校全日制教務部長

勿論、就職、進学とそれぞれの進路がございますので、就職にも進学にも当然役に立つ内容であるということと、本校の生徒に合った内容であるということを重点的に各教科選んでいただいています。

○中野委員

以前も言ったことがありますか、教科書の大きさについて何も話題はないですか。本市の中学校では、この大きさの国語科の教科書は使っていません。自分たちが高校生の頃はこの大きさの教科書だけでしたが、芸術にしても英語にしても大きさが全然違いますので、大きさについて違和感がありますが、その辺は全然話題にはならないですか。

○大西産業高校全日制教務部長

教科で共通の話題ということにはなっていません。ただし、今回の英語は少し大判の教科書で、以前の教科書よりも大判のものを選定したと聞いております。全教科にわたって大きくしようという話はありません。

○中野委員

一回議論してください。今日は出版社の方が傍聴に来ていて、言うまでもないのですが、1ページの掲載量というのは、大きい方が内容を多く掲載できます。そういう物理的な面もあります。そういうことを考えて、1ページの情報量が多くなれば豊かになります。全体としては変わらないかもしれませんが、学校としても議論していただけないかと思います。

変更の理由の中で、国語の“脚注”について、教科書を見せていただいて良く分かりました。ナンバーリングが打ってあって、本文の下のところ例が挙げられていて非常に分かりやすいです。その前の“内容が豊かで”というのも分かりますが、“様々な組み合わせの授業展開が可能である”という部分が、この教科書の構成とどのように関係があるのかが分かりません。教科が違くと難しいかもしれませんが、分かっていたらで良いので教えてください。

○大西産業高校全日制教務部長

そこについては分かりません。

○中野委員

この内容であれば素晴らしいと思います。生徒が興味関心を抱くそういう授業展開が出来ますので、内容の豊かさとその題材を上手く利用していくというのは、授業展開が非常に面白いと思います。そういう意味では良いと思いますが、具体的な展開では難しいのかと思いますので、具体的にどうなるのかを分かれば教えていただきたいかったですということです。

○樋口教育長

美術は前回の高校美術2と同じ発行者ですね。改訂してこの教科書になったのですか。

○大西産業高校全日制教務部長

新しい教科書が出来たと聞いています。

○河野委員

前と同じ教科書もあるということですか。

○大西産業高校全日制教務部長

あるようですが、前の教科書が今後どうなっていくのか分からないですが、おそらくこちらにシフトしていくのかなという風に美術担当者は申ししていました。

○中野委員

美術について見せていただき、斬新な構成になっています。今までの教科書と配列や題材が違ってきていると思います。そういう意味では、専門の教科にはぴったりのかと思います。特に感性を重視したと変更の理由にあり、生徒は感性で絵を描きますので、そこを重視したのは非常に良いことだと思います。実際に技法などを勉強しますが、特に描くということについては、モチーフの質感を表すということを専門学校ではよく言います。そういうことが出来る感性を育てるという意味では、この教科書が適しているという感じがしました。

外国語について、変更の理由で「インプットからアウトプットへ活動を広げる教材も用意されているため～」とあります。これが、具体的にどういうことを指しているのかが分かりません。この内容がきちんと対応していると思いますが、具体的にどういう内容なのかということです。四技能で、インプットが“読む”、“聞く”で、アウトプットが“書く”、“話す”になるとと思いますが、四技能の絡みでこういう表現をしているのかが分かりません。具体の例を挙げてもらえれば、よく分かると思いました。分かれば結構ですので、何か聞いていたら教えてください。

○大西産業高校全日制教務部長

すみません。聞いていません。

○野口教育長職務代理者

先生方がしっかりとご覧になって、こちらの教科書に変更した方が生徒にとって一番学習に適していると判断されたと思います。選定の理由については、読ませていただいて納得するしかないのですが、国語の変更の理由の表記で気になったのが、国語ですので日本語がとても大事にされないといけないのですが、英語をカタカナ表記した言葉が並んでいます。国語の先生方なので、出来ればきちんと日本語で表記していただきたいと思いました。わざわざカタカナを使う必要があるとは思えません。英語をカタカナ化して表記するとイメージは出来るのですが、きちっとし

た意味が理解出来ません。例えば、“短歌教材のラインナップとともに”と“ラインナップ”と表現しないといけないのでしょうか。“短歌教材の構成”ではいけないのでしょうか。その次の“ナンバーリング”は、簡単に言えば“番号付け”ですが、“ナンバーリング”と言わなければいけないのでしょうか。次に“全体のレイアウトもシックな色味で”も何となく感覚では分かりますが、やはりこれは日本語で表記していただきたいと思いました。“レイアウトもシックな色味”は、私は感覚で理解するしかありません。また、“オーソドックスな編集”は、“伝統的な編集”とか、“普通の編集”とか、そういう意味で使われたのかと思います。きちんと日本語で表現していただきたかった。

外国語の変更理由で、打ち間違いだと思いましたが、文章が繋がらないところがあります。「基礎的な学力を高めるためには有効である。本書を選定した。インプットから～本書を選択した」とありますが、公に出す文書としてはおかしいです。やはり、きちっと推考していただきたかったと思います。

芸術では、「そのような需要に対しても、～」とあり、“需要”というのは需要と供給の関係の“需要”ですよね。ここで用いる言葉として、“需要”で良いのかどうか。先生方がどういう感覚で“需要”という言葉が使われたのか理解しかねました。イメージ的には何を言いたいのかは分かりますが、公の文書を作られる上では、表現、内容についてきちんと記載して、読み直していただきたかったと思います。ただし、教科書の選定に関しましては、先生方が随分と時間をかけて検討されたものだろうと確信しております。

○樋口教育長

ほかにかがででしょうか。いろいろと気付いた点について申しましたが、次年度に向けて学校での調査や選定に生かしていただければと思います。

産業高等学校全日制課程の教科書について、原案のとおり承認することとします。

○樋口教育長

続きまして、定時制の課程における選定の経過とともに説明をよろしく申し上げます。

〈定時制〉

○杉本産業高校定時制教務主任

定時制におきましても、全日制と同様、教科書の選定調査委員会におきまして教科書の検討をさせていただきました。結論から申し上げますと、従前から使用させていただいております教科書を、次年度もそのまま採用させていただきたい結論に至りましたので、今回、新規の採択の要望はございません。お示ししております選定一覧表にも、全て“継続”の書籍ということで出させていただきます。

○樋口教育長

調査、選定の経過をもとに産業高等学校定時制の生徒たちにとって、今の教科書が望ましい、継続して使うということですね。

○杉本産業高校定時制教務主任

はい。そうです。

○樋口教育長

この件に関していかがでしょうか。ないようですので、原案のとおり承認することとします。審議させていただきました結果のとおり、産業高等学校における平成 30 年度の使用教科用図書を採択したいと思います。

○樋口教育長

次の議案審議に入る前に準備等がありますので、しばらく休憩といたします。午後 3 時から始めたいと思います。それでは、準備をお願いします。

議案第 34 号 岸和田市立小学校における平成 30 年度使用教科用図書（特別の教科 道徳）の採択について

○樋口教育長

議案第 34 号について、説明をお願いします。

○松村学校教育課長

議案第 34 号につきましては、岸和田市立小学校における平成 30 年度使用教科用図書（特別の教科 道徳）の採択についてです。

岸和田市立小学校における特別の教科 道徳の教科用図書の使用につきまして、教育委員会で採択するため、教科用図書選定委員会の答申を上程するものです。この度、学習指導要領の趣旨を踏まえ、本市児童の学習に最も適した教科書の採択に向け、慎重かつ公平な観点から調査研究を行い、審議した結果として教科用図書選定委員会より答申をいただきました。この答申を上程するにあたり、調査研究を行ってまいりました経過についてですが、5月22日に第1回選定委員会と第2回調査員総会を開催いたしました。選定方針や調査研究の方法、日程等を確認し、調査員による調査研究を開始いたしました。5月24日からは、教科書見本本の学校回覧を行い、各学校と小学校教育研究会における調査研究が始まりました。7月14日には、各調査研究結果が事務局に提出され、7月24日に第3回、第4回の選定委員会を開催し、調査員による調査研究報告と選定委員による答申のための協議を行いました。これらの過程を経て、今回の答申をいただいております。さて、教育委員の皆さまには、調査員の調査研究報告、各小学校と研究団体からの調査研究報告及び教科書センターに寄せられたご意見等もご覧いただいているところで、答申では、8者全ての教科書の推薦をいただいております。この後、本種目1者の採択をいただくこととなります。ご審議の程、よろしく願いいたします。

○樋口教育長

説明が終わりました。道徳の教科化によって大きく変わった点は、認識ですが主たる教材教科書を使っての授業を行うこと、評価を行うこと、この大きな点は二つだと思えます。その大切な教科書の審議にこれから入りますが、審議の手順、進め方について教育委員にお諮りします。岸

和田市の子供たちにとってふさわしい教科書、これは大前提ですが、興味関心や分かりやすさの面、また道徳ですので心に届く、響く面など優れている点、気になる点を出していただきながら、長所の多いものを絞っていきたいと思っていますが、その進め方についてよろしいでしょうか。

【一同、異議なしの声】

○樋口教育長

様々な観点から教科書を見ながら審議を進めていきますが、絞り込んでいきたいと思えます。調査員の報告や選定委員会での議論の状況などは、説明員の皆さんよろしくお願いします。

始めに私から、今回の教科書8者ございますが、特徴として別冊のノートが付いているのが3者とそうでないのがございます。このことについての議論と言いますか答申にも書いていただいているところがありますが、子供たちや教員にとってのメリットはどうか、また別冊ノートを出している3者の比較はどのような議論をされたのかを説明していただいて、これをきっかけにしたいと思えます。

○角銅学校教育課指導主事

本冊と別に別冊としてある発行者は、学校図書、日本文教出版、廣濟堂あかつきの3者でございました。まず、学校図書でございますが、調査員の調査研究の報告によりますと、本冊の中の教材のそれぞれの最初のページに題名が書かれておりますが、その下のところに“活動”、例えば、“活動12ページ”という風に記載がされ、実際に活動という名前が付けられた別冊の12ページを開けると教材の内容に関わって子供たちに考えてもらいたいこと、あるいはこの後活動させてみたいこと、そういうことが3つから4つ分かりやすく示されているという報告がありました。

学校図書の別冊“活動”は、本冊の教材の順番ではなく、指導する内容、観点にまとめて示されているということも特徴として出されておりました。

日本文教出版は、別冊“道徳ノート”という名称で作られておりました。“道徳ノート”を開きますと、順番は出てくる教材の順番に配列がなされていますが、先ほどの学校図書の“活動”の別冊と違いまして、それぞれの問いについて子供たちが意見や考えを書けるように、6年生ですと罫線でそのスペースが取られておりました。また、書くだけではなく、今日の学習はどうであったか、“しっかり考えた”、“気付いたことがあった”、“大切にしたいことが分かった”というように、自分がどれに当てはまるのか“○”を付ける形で、その学習を振り返ることができるという工夫がなされているという報告もございました。また、“道徳ノート”の最後のページには、この1年で学んだことを振り返ったことを書けるページがあります。そこに保護者記入欄ということで、保護者がそれについてコメントをすることが出来る、そういったようなページも設けられているという報告がございました。

最後に廣濟堂あかつきですが、ノートを開けますと“今日の授業で感じたことや考えたことを書きましょう”ということが全てのページにあり、自分の考えをたっぷり書けるスペースが設

けられてありました。本冊の教材の配列の順番ではなく、内容の項目ごとにまとめられる形で配列がされておりました。

調査員からは、以上のような報告がございました。

○樋口教育長

ノートそのものについての議論などはございましたか。3者だけでなく、あるかないかということはどうですか。

○角銅学校教育課指導主事

ノートには、具体的に子供たちがこの教材を通して、考えさせたいことを具体的にノートの中に示されております。また、それを書くスペースが設けられております。このノートを活用することで、道徳の授業に自信のない若い先生方、あるいは教科化になるに従い道徳の授業に不安を感じている先生方もこの教科書と別冊ノート、あるいは別冊ノートを活用することでスムーズに、また充実した授業が展開出来るという面で別冊の活用は大きいという意見が出されておりました。

○樋口教育長

とっかかりを尋ねさせていただきました。何かございませんか。

○谷口委員

ノートの付いていない5者につきまして、ひとつの項目の後に記入するようなところが設けられていると思いますが、別冊ノートと同様の効果が得られにくいという判断をされたのでしょうか。

○角銅学校教育課指導主事

どの教科用図書にも子供たちに投げかけたい問いというのは、ノートのみならず教科書の本文の最後や欄外に記載されています。ノートについては、別冊という形でそれぞれのページに子供たちが考えたことを書くスペースがたっぷりあるということと、それを書き溜めたものを今後、学校で子供たちの道徳の評価の材料に使うというところから考えると、ノートという形である方が評価の材料として判断をしやすい、活用をしやすいという意見は出されておりました。

○樋口教育長

教科書とノートの観点で、教科書を使うことと評価ということを出させていただきました。評価をするに際して、授業の発言だけでなく、内面を知るひとつの手段としてノートに記載する自分の考え方、振り返る足跡が残っていくのではないかと思います。それを見た教員が、ノートがあることによって、分かりやすく出来るのではないかと思います。併せて、ノートによっては家でのコミュニケーションといいますか、そういったことも図れる部分もあるのかなと考えています。

そのような関係で、委員の皆さん、何かご意見や思いがありましたら出していただけたらと思います。

○野口教育長職務代理者

道徳については、これまでも先生方が副読本等を使って、努力して授業を作ってこられたと思

います。道徳は1時間完結の授業ですので、こういったノートがあることによって、一定子供たちと授業完結しやすくなり、先ほど話がありました特に経験の少ない若い先生にとっては、非常に助けになる面が大きいと思います。同時にこの教材を使って、今の自分のクラスの子供たちのこういうところをしっかりと深めていきたい、こういうことを特に考えさせていきたいというねらいを持ったときに、ワークシートのような形でその時間に適した工夫をするということも教員にとっては、ある種実践者の醍醐味でありますし、それによってより授業を深めていけるということにもなるかと思えます。そういう面もあると思えますので、ノートについては一長一短あるのかなと思えます。その点で、先ほどから出ています経験年数の浅い先生方が、これから研修をさらに積みながら指導力を付けつつ、毎日毎日の道徳の授業の実践をしていくために、ノートもそうだと思いますが、ノート以外でさらにどのような工夫がされた教科書が良いのか、選定委員の中でどのように話し合われていましたか。

○角銅学校教育課指導主事

調査員の調査研究の報告の中身や選定委員会での話しの中では、挿絵、ユニバーサルデザインの2つの項目が出されておりました。挿絵については8者多種多様で、その見た目もそうですが教材の中にどれだけの分量があるか、あるいは挿絵に写真等も活用されている教科書もございました。この挿絵を如何に活用して、文章だけではなく挿絵の中から感じることをいろいろ出させるといったことが、ひとつ大事なポイントだと意見として出されておりました。

ユニバーサルデザインの観点からいくと、挿絵もそのひとつですが、字の大きさも含めて様々な工夫がされているところです。教科書の大きさというのも多種多様で、どれが使いやすく、どれが使いにくいのかは、使う人によって感覚はそれぞれですが、その中で特徴的なものとして、日本文教出版の6年生を例にとりますと、全学年そのような形で示されていますが、教材の題名のところにとりわけ物語でありましたら、あらずじでこの物語がどのような話であるかという入りのところで、大体このような話であるということが分かる短い文が示されていること、登場人物が絵または写真で示されていて、これをとっかかりにしてこの文章を読み解きやすくされているというのが、大きな工夫だという意見が出されておりました。45分の時間の中で、一定の長さのある文章を読み解いていくだけでも終わってしまうと、考えなければならない中心のことが考えられずに中途半端で終わってしまう可能性があります、それを読み解くことを出来るだけ短い時間でこういった工夫があれば出来るということ、こういったことを教師が活用することで、またそれを活用できるという工夫があるということで授業が充実してくるであろうと意見が出されておりました。

○中野委員

本市では、これまでに副読本を作成して、道徳の授業の充実を図るという取り組みや道徳の研究授業も積極的に取り組んできた経過があります。これらの成果を生かして、本市の子供たちにふさわしい教材の選定に最善を尽くしたいと思っています。当初、道徳の教科化が決まった時に気になったのが、教科書のことでした。価値観の多様化した現在で、教科書にどんな人物を登場させるのかは大変難しいと、各出版社が頭を悩ませているということが報じられておりました。そ

れで道徳の教科書がどうなるのか、非常に心配しておりましたが、今回どの出版社も気になる点はあるのがありますが、立派な内容で教科書を発行していただいたと、この点では敬意を表したいと思っています。

道徳でのねらいですが、道徳的価値への理解を子供たちが深めていく、また自己についての考え方を深めていくという点です。教員が45分の授業の中で、如何に子供たちが身に付けていくかということで、現在難しいのは団塊の世代の大量の退職があつて、若い経験の浅い先生方が多くなっている点で、指導力にバラつきがあるというその難しさがあると思います。一方で道徳の授業の展開で、そういう差があるからといって型にはめて縛りつけてしまうと、道徳の押し付けになってしまいます。子供たちの活動を伴いながら道徳の内容を身に付けていくという、その難しさがあると思います。教材の教科用図書を選ぶ点ですが、教員と子供たちと両方の立場になって考えていって、子供たちが道徳の学習で気付いていった経過が分かるということも大事だと思います。一方、それは教員にとっては、子供が成長していった経過として捉えることが出来ます。それが評価に繋がります。そういう点で別冊ノートというのは、規格としてまとまっているので、共通した観点で見やすいものになるのではないかと思います。

○谷口委員

道徳教育を進めるにあたって、国から求められているというところで、1・2年においては挨拶などの基本的な生活習慣や善悪の判断、3・4年においては集団生活のきまりや身近な人々と協力し合うこと、5・6年においては相手の考え方を十分に理解して集団生活の充実や伝統・文化を尊重することとなっています。6学年という長い期間の中、各社の教科書で1・2年は良いが高学年になると良くない、逆に高学年の内容は良いが1・2年では字が小さい、挿絵の点やユニバーサルデザインのところでは何か問題がある、あるいはここは全学年を通じて統一されていて非常に良いという風な意見は出ていませんでしたか。

○角銅学校教育課指導主事

光村図書出版では、教科書のサイズが一番小さいということもありますが、ページによっては字が小さい、その学年の学習する子供たちにはふさわしくない大きさの字が載っているページが散見されるという調査の報告はございました。

学研教育みらいは、光村図書出版と比較して大変大きいサイズになっています。中を開きますと、字も大変大きめで、このことは光文書院にも言えますが、大変見やすい字の大きさ、その学年に応じた字の大きさになっております。学年が上がると小さい字の方が良いということはないので、学年が上がっても比較的大きな字で表現されていて、字に対して個別的な支援を要する子供たちにも使いやすい教科書になっているという報告はございました。

○樋口教育長

様々な観点から色々と審議を深めていけば良いのですが、この道徳の教科化、つまり初めて道徳に出会う、今までも道徳の時間はあるのですが、教科書によって一番先に道徳の時間、道徳はこういうことをするという説明を各者がそれぞれ工夫しながらスタートさせていると思います。特に1年生、幼稚園や保育所等から初めて出会う教科としての道徳をどのような工夫で導入を図

っているのか、道徳の扉とかいろんな言葉を工夫されて書いていたと思いますが、その辺りの議論が出ていたら教えていただけたらと思います。

○角銅学校教育課指導主事

各者、教科書を開きますと道徳の学習の流れ、年間を通したもの、あるいは1時間を通してこのように道徳は学習を進めていくものですよということが、1年生のみならず、それぞれの学年の子供たちに応じて掲載はされております。

例えば、東京書籍では1年生の入学とともに道徳という学習とはどんなものかということ写真とともに掲載されています。

日本文教出版は、6年生では写真などを活用して、詳しく学習の流れが説明されています。光村図書出版もどのような活動を道徳でしたらよいか読んでみよう、話し合ってみよう具体的な活動を示しながら、学習の具体的な流れが示されておりました。

教育出版では道徳の学習の流れだけではなく、道徳の学習を始めるにあたって自分が今どんなことを考えているのか、今の自分について書いて、それを教科書の最後には学習を通じてどんなことを考えるようになったか、最初と最後を振り返りながら自分の一年間の成長を考えると工夫もされている、という報告もございました。

○谷口委員

先ほどの教育フォーラムの報告でも言いましたが、道徳教育には家庭、保護者との協力が非常に重要だと思います。その保護者関係のところ、保護者に見てもらいやすく、保護者とキャッチボールが出来るような教科書の工夫はあったでしょうか。

○角銅学校教育課指導主事

まず、日本文教出版の別冊“道徳ノート”の中の一番最後に、子供たちが一年間で、またその途中で道徳の学習で学んだことを書くスペースのそれぞれの欄の横に保護者の記入欄のスペースが設けられています。これは全学年にそのようなスペースが設けられ、子供たち、学校だけではなく保護者もその学習の中に触れながら、子供たちと学校と家庭が繋がるといった工夫がなされておりました。

教育出版は、一番最後のページに一年間の道徳の学習を振り返るというページがございます。これは、学年の一番初めに自分が今どんなことを考えているかを受けて、一年間の学習を踏まえて今の自分を見つめて書くページですが、そのページに“家の人から一言”というスペースがあります。“先生からの一言”とともにそのスペースが設けられています。このようなスペースが設けられているのは2者ございまして、調査員の調査の報告から2者のうち日本文教出版の方は、6年生でしたら4回書く機会があって、そういった家庭とのキャッチボールを複数回することが出来る工夫がなされているという報告もございました。

○樋口教育長

色々な観点でお尋ねしているところですが、今回、道徳の教科書をスタートするにあたり、今日的課題といえますか、それぞれの教科書でいじめをはじめ、情報モラル等を取り上げている状況、その中身や分量などトータルとして違うと思いますが、新聞報道でも多いいじめに関する取り上

げというのは、日常生活においても人に対する思いやりなどの心を育てる大きなものではないかと思しますので、その辺りでの取り上げている割合などの部分について何か分かるところがあれば教えてください。

○角銅学校教育課指導主事

調査員の調査研究の報告の中で、今日的な課題として、いじめ、情報モラル、国際理解といった視点で、どれだけの分量が教科用図書に掲載されているかという研究の結果が出ておりました。いじめについては各者それぞれ複数ページ記載がされていましたが、その中で、日本文教出版では全学年を通して188ページございまして、8者の中では一番割合が多く掲載がされているという結果がございました。

○中野委員

同じような内容ですが、最近、スマホによる性犯罪やラインによるいじめとか情報機器による問題行動が多くなってきています。子供たちに情報リテラシーが身に付くことが、非常に大切なことです。この点で、特に情報関連の記載について、出版社の特徴があれば教えてください。

○角銅学校教育課指導主事

情報モラルについても、いじめと同様、各者全ての発行者で取り上げられているという報告がございました。情報モラルについての割合は、日本文教出版が1年生から6年生までを通じて、合計52ページと8者の中では、一番たくさんの割合で掲載されているという結果がございました。光文書院では、情報モラルについて学習する、学習できる教材、ページが、1年生から掲載されているという報告もございました。

○樋口教育長

大きな観点で幾つかの調査報告や委員の考え方を述べさせていただいて、多く長所のあるところが出てきたかと思えます。ずっと見られてきて、気になることや工夫されていることがあれば教えていただければと思います。

○野口教育長職務代理者

特別な教科になったという点では、今度変わるということですが、道徳教育そのものは学校教育全体を通じて行っていくものであるというベースの部分は変わっていないと思います。学校生活、あるいは他の教科との関わりの中で様々な道徳的な課題をしっかりと深めていくものが、おそらく教科としての道徳の時間だと思えます。そこに繋がっていくことが大事ではないかと思えます。他教科との関わりであるとか、学校生活全般に関わって、教科書との内容の関わりがどうかという点では何かご意見はなかったでしょうか。

○角銅学校教育課指導主事

学研教育みらいと光村図書出版の2者の教科用図書の裏表紙を開いた一番最後のページに、それぞれの内容項目に1冊の教材をまとめた一覧がございまして、その中で学研教育みらいでは、他の教科等と主な関連という項目がございまして、それぞれの教材が他の教科のどのような内容と関連付けられるか、ということが一覧になって示されているという調査報告がございました。

また、光村図書出版では、同様に他教科領域との関わりという欄と、合わせて現代的な課題等

との関わりというところで、それぞれの教材がどのようなことと関連付けられるかということも分かりやすく示されている表もあるという報告もございました。

○樋口教育長

教科書によれば、学校生活、実生活に結び付けている題材が多いところと、物語が非常に多く取り上げられている教科書などがあると思います。実際の生活を振り返って自分自身の生き方を、あるいは道徳性を養うという面から、興味関心、あるいは生活に結び付く面で、実生活が多い方が良いのかどうか。読み物指導だけではなく、取り上げるものが実生活から出る方が良いという思いもするのですが、実話といえますか、スポーツ選手や偉人など色々記載されているところがあると思いますが、そういう内容で比較されてどうかという話しはございましたでしょうか。

○角銅学校教育課指導主事

学研教育みらいですが、実際の過去の偉人、また今後語り継がれていくであろう現在活躍されている、例えばスポーツ選手のような方、あるいは実際にあった出来事等、実話という形で表現をさせていただくと、そのようなことを取り上げているページ数が1年生から6年生までで190ページと一番多く取り上げられておりました。このような実際の出来事や実在する人物を取り上げるので、絵だけでなく写真等もたくさん活用しながら教材が作られているという工夫が、子供たちにとって実際にあること、事実のことなので、架空のことよりも興味関心を高めながら教材に触れていけるのではないかという調査研究の報告の中にごございました。

○中野委員

どの出版社もユニバーサルデザインという観点で編集していると思いますが、字の大きさ、特に色彩も重要な要素だと思いますが、こういう観点で編集したという記録を明記している会社はどれくらいありますか。ユニバーサルデザインを監修したという記載についてどうでしょうか。そのように書いていなくても勿論配慮はしていると思いますが、はっきりと意識付けしている会社の姿勢として大事かと思います。

○角銅学校教育課指導主事

ユニバーサルデザインについては、調査員の調査研究の中でもひとつ視点に置きながら研究がなされておりました。それぞれのユニバーサルデザインの観点で各者それぞれに特徴があって、見やすさといえますか、そういった面からいくと鮮やかさといったところも含めて、写真が多様に使われている学研教育みらいや日本文教出版が見やすく、色鮮やかでその工夫のおかげで分かりやすいという調査研究の報告がなされておりました。教科用図書によっては、東京書籍の裏表紙に“読みやすさと見やすさを追求した書体を使用している”ということが示されていたり、学校図書の裏表紙には“ユニバーサルデザインの観点で監修がなされた”とあり、カラーユニバーサルデザイン監修を誰がしたかということも名前と所属とともに記載がされております。カラーユニバーサルデザインに関する校閲といえますか、そういう表現で光村図書出版も裏表紙に示されております。同様に日本文教出版もカラーユニバーサルデザインに関する校閲ということで、一番最後のページに示されております。廣済堂あかつきにつきましては、裏表紙に“カラーユニバーサルデザインに配慮して作られている”ということで、マークを裏表紙に記載がされておま

すという報告がございました。

○樋口教育長

いろいろな観点でそれぞれの良さを委員からも出していただきながら、調査、選定の方からも協議の結果を報告していただきました。それぞれの教科書会社の努力で、いろいろな観点で工夫されている点は多くあるのですが、先ほどからのノートの工夫、学習の流れ、道德の扉、学びの記録など、またいじめや情報モラルなどを取り上げている分量をトータルして多く出てきた出版社は、日本文教出版だと思います。どなたが聞いておられても、そのように耳に入っていると思います。その辺りでいかがでしょうか。委員の皆さんも、この辺をもう少しということ、観点やここが引っ掛かるというところがありましたらお願いします。絞り込みで、たくさん良さを出して工夫されている日本文教出版が多かったと感じていますが、いかがでしょうか。

○谷口委員

教育長と同じ意見です。教育長が挙げられた利点の他に、保護者とのキャッチボールが出来るかということと、ノートの中に友達の見を書くとところがあって、他者のことを理解すること、実際にその話題について自分で考えてみよう、ということが協調関係を育てていくのではないかと思います。冒頭、ベテランの先生にとっては、ノートがあることによって制約を受ける可能性があるという意見になるほどと思いますが、本市の今の現状で若い先生が非常に多いことから考えると、ガイドという失礼かもしれませんが、道標があるということで非常に扱いやすいのではないかと思います。学研教育みらいの教科書も非常にきれいで、実話に基づいているとか、他の会社もそれぞれ素晴らしくされていて、甲乙つけがたいところではありますが、今言った理由で、日本文教出版が良いのではないかと考えます。

○河野委員

ノートがあるというのは、とてもやりやすく良いのではないかと思います。その中でも書くことが分かりやすいと言いますか、書きやすいということに関しまして日本文教出版が一番良いかと思いました。教科書全体のページ数も多い方で、多ければ良いということではありませんが、多い方が内容が濃いのではないかと思います。全体的にも良いのではないかと思います。

○中野委員

選定の大きな観点は、別冊ノートがあるかどうか大きな分かれ目だと思います。学校図書、日本文教出版、廣済堂あかつきの3者で、学校図書のノートで4領域ごとに教材内容をまとめています。非常に新しく、今までになかった発想で面白い取り組みだと思います。そういう意味では、子供たちの成長過程というのを辿っていきやすいと思うのですが、子供の方にとっては、今まで教科書というものは大体順番に並んでいるものだという考え方が定着していますので、非常に新しい斬新な取り組みなのですが、子供たちがそれについていけるかなという懸念を持ちました。

日本文教出版の別冊の中で、特に大きな成果が得られるかどうか、授業が上手く成り立つかどうか、ノートの中の友達のかえについて、どう展開するか、どう導いていくかは教員に課せられた大きな課題かだと思います。ここのやり方については、研究しなければいけないと思います。そ

れが課題になるということです。

廣済堂あかつきについては、別冊がありますが内容的に子供たちが興味関心を強く抱くという部分で、他者に比べて乏しいと思います。また、工夫が少ないような感じを持ちました。

別冊ノートのある3者については、そのような感じです。

○野口教育長職務代理者

どの教科書もさすが教科書会社で、長短付けがたい素晴らしい教科書だと思いました。例えば、光村図書出版の文字が小さい部分につきましては、先生に読んでもらいましょうと、子供たちは絵を見ながら先生の話を聞いてしっかり考えよう、という工夫がされていると思いますので、さすが国語の光村図書出版だと思ひ見せていただきました。また、6年生の“コスモスの花”というところでは、男らしさ、女らしさのようなことを脱却しようとしている内容で、子供たちに考えさせる上では素晴らしいと思ひながら見せていただきました。

先ほどから出ています日本文教出版の4年生でいじめの問題に関して、ロールプレイの場面を丁寧に作ってあって、自分たちで経験して考えてというところで、絵を見ても子供たちがちょっと引いてしまうような内容ではなくて、やってみようかなという形になっていて素晴らしいと思ひました。題材の扱いでも今の話題の方が取り上げられていて、子供たちにとっても興味を引くものだろうと思ひました。6年生の“心のベンチ”というところで、いじめと法律との関わりをきちんと示して、いじめは法に触れるというところも理解させた上で、心の問題にぶつけていくという内容でした。ノートの点については、一旦使ってみてからという思ひはあります。そういう思ひを持ちながらですが、内容的には日本文教出版の内容は素晴らしいと思ひ見せていただきました。

○中野委員

冒頭で立派な教科書を作ってくださいましたと言ひました。その一方で、気になる点があると申し上げました。折角の機会ですので、気になる点を具体的に挙げさせていただきます。

光文書院の1年生の38ページ、“かぼちやのつる”については、話しの順序が分かりにくく、記載の文章の把握がしにくい。2年生33ページ、“あいさつがきれいな王さま”で、同じ観点でそのページの中に縦書きや横書きが混在して読みにくい。2年生38ページ、“やさしい村の子どもたち”の中で落花生が入っていますが、これは非常に特殊な植物なので、2年生には難しいのではと思ひました。

学研教育みらいの1年生の24ページ、“金のおの”の話しが、銀のおのでも終わっていますが、オリジナルを大切にすべきではないかと思ひました。1年生の102ページ、“サバンナの子ども”というのですが、1年生の子供に“サバンナ”が理解出来るかなと思ひました。110ページの“おおあわてのダンプ”で子供たちにとってダンプのイメージが悪くなると思ひます。また、保護者がダンプの運転をされている場合もありますので、そういう点の配慮がなかったのではないかという気がしました。

○樋口教育長

冒頭に申し上げました、それぞれの教科書の持ち味があるのですが、長所の多いものに絞って

いこうという姿勢を持っていました。今回、皆さんのご意見を集約し、審議していただきました結果、平成30年度用特別の教科 道徳に関しまして、“日本文教出版”で採択させていただいて委員の皆さんよろしいでしょうか。

【一同、異議なしの声】

○樋口教育長

では、そのとおり採択させていただきます。

議案第35号 岸和田市立小学校・中学校における平成30年度使用教科用図書の採択について
(小学校 特別の教科 道徳を除く)

○樋口教育長

議案第35号について、説明をお願いします。

○松村学校教育課長

議案第35号につきましては、岸和田市立小学校・中学校における平成30年度使用教科用図書の採択について(小学校 特別の教科 道徳を除く)です。

岸和田市内小学校におきましては、一覧に記載の教科書を平成27年度より使用をしております。本市中学校において、一覧に記載している教科書を平成28年度より使用をしております。

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条で「教科書採択におきまして、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする」と定められています。この政令で定める期間とは、同法施行令第15条で「種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、4年とする」と定められています。このことから今年度、小学校及び中学校の教科用図書の採択につきまして、昨年度と同様に同じものを引き続き使用することとしておりますので、その審議についてよろしくをお願いします。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

それでは、岸和田市立小学校・中学校における平成30年度使用教科用図書の採択について(小学校 特別の教科 道徳を除く)、継続で採択させていただいて、委員の皆さんよろしいでしょうか。

【一同、異議なしの声】

○樋口教育長

では、岸和田市立小学校・中学校における平成30年度使用教科用図書(小学校 特別の教科 道徳を除く)について、原案のとおり採択いたします。

○樋口教育長

以上で全ての案件が終了しましたが、他に何かございませんか。

ないようですので、これをもちまして本日の定例教育委員会会議を閉会します。

閉会 午後4時15分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

教育長

署名委員